

Note Book

20. 9. 20 ~ 20. 10. 11.

29

U.S. NO. 294

野德

九月二十日水曜日

今日は、楽しみにしてゐたいなご取り行軍だ。袋を持ち、水筒など忘れないうち、調べてから學校へ行つた。お食事をするまですてから、一班の人だけがみんなの食器を持って寮へ歸つた。をじ様やゆり子さんが、私をからかふやうに、足の痒い人はうちでマーシベンをしたうどうですかとおっしゃつたので取づかしくなつてしまつた。神社の境内で朝禮をして高學年より出發した。田んぼに出てからあちうこちうといふさまがし始めた。三部六年の人はとてもはりきつてゐる。一匹のうさぎと又すぐ逃してしまつた。先生も少し入れて下さつた。阿部先生が自てん車に乗つて六年生橋に集合とおっしゃつた。船達も宿居寺へ行つて、歸りにお野さいをせさつて来るはずだが、大風のために、みんなにお野さいが無いのて私たちは、三年と同じく橋のたもとで、いなごを取つた。連中の道で取つたので袋には、もう三十三匹はいつてゐた。一時になつて、橋の下の河原へ降り、山を見ながらおいしくおめんとうをいただいた。かぶちが甘くてとてもおいしかった。橋の上に並び、神社へ向つた。寮へ歸つて、二階へあがって見る。大工さんが来て、いっしょに、百百合とひな菊にはもうたなが出来てゐた。かんなくつた。浮山ちうばつてゐた。全部たなが出来てあり、荷物を整理をして、お部屋をきめていた。たなは場所もきめていた。いらないものは一番上、今使ふ衣類はその次、一番下は學用品だつた。夜寮へ歸つてからふとんをつんでから、少しして就寢用意になつた。さうして寢場所をきめていた

だいた。私は前野さんの隣で前の岩田さんの場所になった。病
て少しすると中野寮の人かお月見にきた。さうして有賀先生と
話していらした。



九月二十一日 金曜日

午後寮へ歸つてからレコードをきけて
たとき、がけい會にする物をきめた。
どうやら、めざきめがねをきまつた。
するに夕食になつてしまつた。

歸つてよくききめつて、り、かんたね
むくつたので、練習は明日にな
た。頭が痛くなつたので先生の所へ
行つた。就寝用意になつたので教官室にうつた。しばらくする
とお医者様がいらした。しんさわがすんでから、注射をした。こ
れからお薬を飲む、氷枕にしていただいて、すぐ寝た。おみか
るの、でやになつてしまつた。



九月二十二日 土曜日

今日は朝から熱を計る、九度五分もあつたので、ひつ
朝食は、いた、かす、十時頃、湯を
いた、いた、お砂糖を、山、入れて下
つたので、とても、あつた。おいしく、いた
だいた。百合子さん、他の、おうち、の
方々、澤山、来て、下つた。何と言つて
よいのか、め、め、なかつた。

二時頃、お昼食をいただいた。おうちの方が作つて下つた。おいしいお
粥と、お豆腐の、おつけだつた。とても、とても、おいしい、め、た。それ、め、
り、眠り、して、目を、さます、と、そろ、そろ、みんな、が、歸つて、来る、頃、だ
つた。時間、も、早く、たつ、もの、だ、な、あ、と思つた。先生、も、歸つて、し、は、り、く
する、と、お、医者、様、が、いら、し、つ、た。昨日、の方、で、なく、今、まで、金、澤、の
陸軍、病院、に、いら、し、つ、た、さう、だ。あと、で、先生、が、今日、の方、は、お、医者、様、の、御
ね、と、あ、し、つ、た、ので、あ、め、しく、な、つ、た。その、あと、で、夕食、を、い、た、だ、いた。お、うち
の方、が、お、味、増、汁、に、卵、を、落、し、た、の、を、下、つ、た。熱、く、と、も、お、い、し、め、つ、た。
みんな、に、親切、に、し、て、く、だ、さ、る、ので、早、く、な、ほ、う、は、わ、る、と、思、つ、た。
ひ、な、菊、の、部屋、で、は、明日、の、學、び、い、會、の、練習、を、し、て、ゐ、る、やう、だ、つ、た。ね
ず、み、が、出、て、来、て、お、粥、の、お、山、物、を、ふ、た、を、あ、け、お、う、し、た、ので、び、く、り、ん
た。

九月二十三日 日曜日



今日は、學、び、い、會、が、ある、の、だ。だが
朝食、を、す、ま、せ、て、し、つ、する、と、百合、子
さん、が、いら、し、つ、た。たい、く、つ、して、お、た
が、い、ろ、い、ろ、な、お、話、を、し、て、下、つ、た、り、
本、を、讀、ん、で、下、つ、た、の、で、たい、く、つ、て
は、な、く、な、つ、た。

お十時にホットケーキをいただいた。裏に甘いみつがっついておたので、と
てもおいしかった。午後熱を計つて見ると、だいたい、底、つ、た、ので、め、り、る。
ちゃん、た、す、り、が、し、て、ゐ、る、トラ、ン、プ、を、ご、を、見、て、お、た。それ、め、ら、う、又、熱、を、計
つて、見、る、と、七、度、三、分、だ、つ、た。これは、大、変、と、本、も、讀、ま、ず、に、静、か、に

家より御親切は何と感謝したりよいふ令しませ
んね

してゐた。食はおいしいおいしいおはぎど、かばちの煮たのだった。それより初美さんやあうちの方をおついでして今日した學びい會を見せたいのだいた。今まで見たい見たいと思つてゐたのが見られたので、もうれしかった。初美さんのをどりもあった。とてもお上手だった。



ほんだった。きなこもかかってゐた。さといもにおしほをつけたいだといさうおいしかった。午後又本を讀んでゐた。夕食がすすんでみんなが歸っていらつしやうてか、お医者様がいりつしやうた。

九月二十四日 月曜日

今日は朝より熱が盛つたが、用心して學教をお休めした。たいくつなので少々の友を讀んでゐた。時々百谷子さんの「いづれ」を讀んで熱を計り下さつた。やはりなかつた。さうと明日から起きられると思つた。さうもうれしかった。お晝は、さといも、さといもにおしほをつけたいだといさうおいしかった。午後又本を讀んでゐた。夕食がすすんでみんなが歸っていらつしやうてか、お医者様がいりつしやうた。

九月二十五日 火曜日

今日はいよいよ起きられるのだ。久しぶりで洋服を着るのでへ

んな氣がする。今日は神社の境内だった。國語は自習で十五俳句を作つた。とてもむづかしかった。加藤先生が蛙と草をいっしょにした。どうなるか研究してどういふかした。午後はおへん。自由だった。私は寝まきだけだった。思ふやうには洗へなかつた。おハフに乾パンを一ダースへ十二個づついただいた。とてもおいしいかつた。虫のはいてゐた人も一入二人あった。やうだった。それより少しの間日記を書いた。病氣をしてためてしまひまだおひつきさうもなかつた。夜かへつてから教習室でトモトをいたした。とてもおいしかった。柿のやうに青いうちに取つてもおいておけば赤くなるのだ。よいなあと思つた。就寢用意まで日記を書いた明日の用意もした。



九月二十六日 水曜日

今日も境内でお勉強だ。國語の時あまり日光のかんかん照る所をやつたので頭が痛くなつた。ししまの算数の時はほうとして何と何とやらわからなかつた。四時間目の理科もひき續き算数をやつた。午後は寮へ歸り、お風呂を洗つた。おハフに乾パンをいただいた。それがおうちの方で出た初いものあげたのを二ついただいた。紙に油がしみ出てもった。いいやうだった。

九月二十一日檢

病氣にはかゝらないものなり

わ
文
ち
に
は
う
に
う
元
氣
に

くろよふにふ 鍛錬

い
T =
(
B
せ
う。

九月二十七日 木曜日

今日は寮で授業をした。だが國語だけだった。俳句の事についていろいろお話をお聞きした。



私もりっぱな俳句作りになりたくなあと思つた。それから、日記を書いたり、日記を書いたりしてゐるうちに出發用意になった。晝食がすんで寮へ歸り日記を書いてあみ物をしてゐると、マージンをした人はずへいりしやいとあつてゐたので行つた。少しするとお八つになった。先生がいつてもいただいていゝとおつたので荷物の所へ置いて又下へ行き續をした。一度目だけはあがつたが二度目からはだめだった。三時半になったので上へあがり乾パンをいただいたり、めう、俳句を作つた。五つ作つた。出發用意まで又あみ物をした。夕食は作日と同じさといも御飯だった。あつゆはずいさといもづくしに、枝豆もあつた。お腹をいづはいにして寮へ歸つた。

寮へ歸つてから乾パンをいただきそれからあみ物をした。七時
ら、反省會があった。氣をつけたいのは、お食事のお作法お掃除
の時、わる口をいはないといふ事が主だった。すんでからすぐ
就寢用意になった。寢場所をこうたいした。

九月二十八日 金曜日

今日は休養日だ。朝會はお裁、護座
で行はれた。すんでからすぐ廣へ歸つ
た。すぐに日記を書いてから荷物
を整頓した。それから、シャッや木
タイを洗った。あんがい早えすんだ
からもう又二階へあがって出發用意
まであめ物をした。



晝食に行くとお掃除をしていらしたのですむまで待つて
 おた。お教室にはいるとすぐに、初美さんのお・機ひになつたで
 ラウスがかべにはつてあつた。そこでなりどまつて見てゐると早く
 しろよ。と男子が言ったので、自分の席へ行つた。午後はずっと寮
 にゐた。寺尾さんへお手紙を書いたりあや物をしたりしてか
 り下へ降りてエージャンをさせていただいた。三時半になつてか
 り又上へあがつて乾パンをいただいた。すんで少しすろと出立
 用意になつた。夜歸つてから治れつをしていただいてから今日有
 合子さんが取つていらしたまつたけを見せていただいた。海
 藻みたいのもあつた。ぬもきのこ狩をして見ないなあと思つ
 た。それから上へあがつて就寢用意まであや物をした。

藻



九月二十九日 土曜日

今日は第一日授業なので図書館だった。用意になった。地理の時、四國の北の方と、神戸から下関までをしらべた。中國地方は、いたる所でぼくちの業がさかんだとあつた。それで、牛乳バターチーズのまんづめが多いとあつたのでそこへ行きたくなつてしまつた。

圖工の時は阿部先生がお出かけなので、自習になつた。

理科の時に算数をした。さうして、分數の計算、割算をお習ひした。午後から一時間理科をした。さうして明日から日記を週して、その日ふしぎに思つた事や理科の事について書くことになつた。

寮へ歸つて、おく習をして、おみ物をしようとする。おさん足に行きます。めら急いで集合におしやつた。並んですぐ出發した。福光橋を渡り、線路を越えてみるちゃんのおはあさまのおうちに行つた。おうちにあぐら

せていただいてお度を見せていた。だきそれからお度へ出た。つき山があつてとてもりっぱだ。それから又少して来て甘い赤い實を一つづついた。いた。ぶだうのやうな味をした。それから又少してお茶をうばひいた。いた。みるちゃんやまこちゃんも来て、柿を落したのを枝ごと持

つて来た。それにはおいしさうな實がなつてゐた。それから北山田の方へ行く。又もどつて吉江國民學校の校庭でみんな乾パンをいた。たいてから寮に歸つた。四時だったので足をふみず、學校に行。困つてしまつた。トラリが通つたのでほつとした。さうして急いで寮

うをしていただいた。明日のいなご取りの袋を作つて少したつと就寝

九月三十日 日曜日



今日は午前中いなご取りだ。高田先生や吉波寮の人といつしよに學校の裏のたんぼに行つた。始めはあまりおないやうだつたが、たんぼを取れるやうになつた。袋が小さいので、すくいっぱいになりさうだ。

十時半だつた。大きな袋にみんなのいなごを集めた。それからお裁縫室に行つてお晝食までゆくり休んだ。午後は寮舎作業だつた。明日衣がへなので、冬のを物を出して、夏の物をしまつたりした。今まで澤山あつたいなごを物を入れた

のている物が多くなつてしまつた。それから、つぎをしてゐると有賀先生が「食事當番の人ちよつと来て下さい」とおつしたので、行くと、おうちの方からごちさうをして下さつてお箸がいろいろある。みんなの友

取つて来て下さい。とあつしたので、すぐに行つた。廊下でいなごがびひびひん飛んでゐた。歸る途中トラリがきふに私たちの歩いてゐる方へ来たので急いで川の方へ寄つてしまつた。あまりあはつたので川へ落ちさうになつてしまつた。道の方へ寄つてもひかれる。本當に

むはがどきどきして気がおちつめない。少ししてお部屋をきれいに
にはいてからおやつにおうちの方へ一懸命にぬたちのために作つて
て下さったうどんをいただいた。それに昨日百合子さんが取って
いらしたとまがつがはいつてとてもおいしかった。それから昨日い
だいてまた柿ととまとをいただいた。どれもみんなおいし
かった。すんでから食事。巻物みんのおいんを集めて洗った。
夕食までつぎ物をつぎをした。夜歸てから日記を書いたり
おれうをしていただいたりした。



十月一日 月曜日
今日から新しい月だ。それに衣更
ごころなしにしつかりやうといふ
氣持がわいてくる。長い間お別れの
夏帽をしまつて、今更しまつておい
た冬帽を出した。かぶって見ると、さ
くて風でも吹いてきたら飛ぶさうな
氣がする。帽

今日から食事の前に朝會をするこになった。さうして体操はす
んでからになった。お掃除の分た人もきまつて今月はぬたちがあ
裁縫室になった。國語の時間は、俳句を見てよいのを書いた。
國史の時間は、奈良の都をお習ひした。あとは自習で日記を書
いた。お晝食はうどんだった。もりつけにしたので、お皿に山のや
うになつてしまった。とてもおいしく、お腹もいっぱいになった。午
後はずっと學校に居た。それは有賀先生が、柳さんの代理にあな
代理はよかつたわ

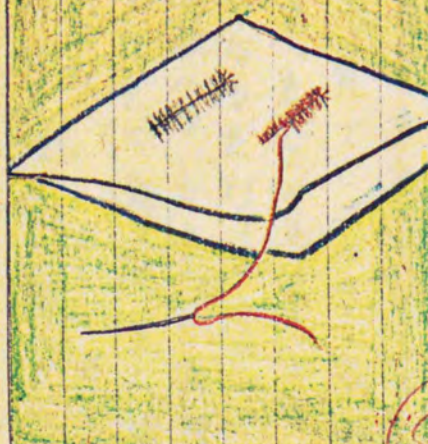
りになったからだ。ぬたちは図書館の階下で自習した。
御本をおかりしてもよいと高田先生があつていたので、それを見
たり、あみ物をしたりしてゐると、茂木先生が歸つていうし、
さうして私が熱を出した事やなにかみんなごめんじなのではないな
うしまった。夕食がすんで寮へ歸つてから、河井さん、追水さん、梅谷さん
おうちの方でモージャンをした。途中でとまとをいただいた。あ
かしといふ所で、就寝用意になった。×でも本當のせう？
めいめいスリッパを聞きながら、ゆめの園へと走った。
十月二日 火曜日 大分ふれたらいいわ



今日から
新しい
冬帽だ
うれしいな
はま反対だと思つた。地理は、南四國をお習ひした。土佐藩の水
は、東京藩や大阪藩と違つて、とてもすんでゐてきれいだといふ
事やまぐろやかつをが澤山取れて、土佐はかつをがぶしが多
いといふ事などお聞きした。お裁縫の時間は、ボタンの穴かが
りをお習ひした。先生の見本を見せていたところ、とてもきれい
なので、取づかしくなった。午後は寮へ歸つた。さうしてふく習
として日記を書いてから、あみ物にせいを出した。

夕食がすんでから寮へ歸るといつもよりおそく六時だつた。あみ物をしておろし乾パンを分けて下さつた。それをいただいてから治療をしていただいた。みんなすんでからおうちの方で、有賀先生やみんなとマージンをした。二三回すると、就寢用意になった。床も敷きかん布もさつとすんでから、小泉さんの洗面器に水を汲みに行つた。としをさんがあまり勢ひよくせんをお取りになつたので、寢巻にひっかかつてしまつた。つめたくなつていやだつた。

十月三日 水曜日



今日は坂口さんが集團疎開におはりになつて、より丁度一年目だ。授業は西尾寮で行れた。加藤先生の理科の時、所久澤先生のお話があった。途中で終つた。お昼食がすんでから、すぐ寮へ歸つた。すぐ日記をつけて、それから三日目の影の讀む練習をした。たいぶすると聲がつかれたので、あみ物をした。先生や、マージンをした人下へいらつしやいとあつたので、行つた。途中であやうになつた。いただいてしまつてから、就寢用意まで遊ばせてくれた。いた。夕食の時、あまりきこが澤山あつたので、どうしてよいかわからなくなつてしまつた。寮へ歸つてあみ物をしてからマージンをした。トマトもいただいた。

朝おそくなつておふとんが上になり早くかんぶさつをしたの

で他の人が始める頃は、もう終つてゐた。それで大沢さんのもうふののみ取りをした。とてもつまらなかつた。寢る時、いつものやうにめいめいスリッパを履んで下さつた。私は、すえ子さんのやうなすなほな子になりたいと思つた。その反対りやう一さんやも、ぬはさんのやうな子にはならないやうに思つた。

十月四日 検

今日是有賀先生がいらつて、より丁度一年だ。昨年の明日の午後高田先生と有賀先生の新入式があつたのだ。朝食はさつま薯がはいてゐた。食器を洗つて歸つて、それから、高田先生、米山先生、舟橋先生、柿内先生の新しくお入りになつた四人の先生の、しやうかいがあつた。一諸にお勉強したり運動をしたり出ると思ふと、早く四人の先生はなれるやうに思つた。



午前中は、西尾寮で授業をした。お昼食はいつもよりも三十分ほど早かつた。午後は寮へ歸つて、三班からお風呂にはいつただけで出ていらつした。私もさうしようかと思つてお湯を汲まうとする以上原さんがお入り入れるわよと

お湯を汲まうとする以上原さんがお入り入れるわよと

つしゃったので私もまねをした。下からもわいてこないし、
もよいお湯だった。三班の人はかはいさうだったなあと思
った。それに、かぜを引かなければよいけど……

あがって、かう日記を書いて、國語の書取をした。二時半頃
乾パンをいただいた。今日は主事先生のお話があるのでも、
食が早いので三時半頃出發用意になった。學校へ行くとも
だお裁縫室がふさぎやうで、おのれん教室であみ物をし
た。すぐあいたので急いであがった。ごちさうでおはぎとみ
ちやだった。すんでかうさうさく主事先生のお話があった。
外はまっ青では、いさうな氣がした。まづ隙間についてお
話があった。この冬をこせないうな人東京におうちがあ
る人はなるたけ十月十六日から十一月に歸つてその近
くの學校へはいさす。高師は今どんなになっておるか、
いふ事などで終った。下へ降ると、まっさうだった。くつを
まちがへないやうにして外へ出た。みんながそろふまで、
も大へんだった。寮へ歸つて、から、柿の先生、米山先生に、
ぞ、よろしくお願ひします。ごあいさつをした。今日から
ここへおとまりになるのだ。それからおれうをして、いた
いて少しすると就寢用意になった。



十月五日 金曜日
今日も又雨だ。お食事、がすんで食器を洗ひに行、時礼法室で
先生の會儀をして、いさうした。一時、間目は、阿久沢先生の最
後の算數の時間だった。分數の引算と通分をお習ひした。
第一日目からは理科と算數は加藤先生だとおしやうした。
あとは全部自習だった。私は日記をつけて、かうあみ物をし
た。あうちの方があがって、いさうして、八百谷さんたちと面白
い事をあつしやうて、おたのしみで、おかしな事をして、
午後はすぐ寮へ歸つた。三日月の影の讀みのおけいこや、
ん字のおけいこをした。つめれたので、又あみ物をした。もう
がき後があみあげられるの、おもしろい。三時に、
つてから乾パンをいただいた。あみ物をしながら、うたので、
そ、なつてしまった。夜寮へ歸つて、かう、あみ物をして、
有賀先生が、いさうして、何かして遊ませうよ。とおしやうした。
みんな、おもしろなつて、うかさんをして、たり、ごんべさんの赤ちゃんを、
たり、電報、ごつこをした。最後に、のんき武士や、いろいろな歌
を歌った。終ると、丁度、就寢用意になった。今日はとても楽し
かった。

十月六日 土曜日
今日は休養日だ。朝會がすんで、
らすぐ寮へ歸つた。一番にあがつ
てお洗濯をした。あまり大物がな
かったの、早くすんだ。それから二階へ
あがって、荷物の整理をして、
日記を書いた。



それを書けてあみ物をしてゐると、マージンをしたい人は下へいっ
しやいとおっしゃったので行つた。他にだれも来ないので少し心配
だった。終る頃に大沢さんや野村さんがいっしょにやうした。出発用
意になる少し前に萬は萬で、竹は竹できれいに並べて、台のは
しにやうした。とてもきれいだつた。午後は寮へ歸つてから少し頭が
痛つたのでかべによつてゐた。みんな乾パンを持って小矢部
川の方へさん歩にいっしょにやうした。私は行けないのでつまらな
かつた。みんなが歸つてから乾パンをいただいた。チヨキがもうさ
き出木あがるのでとてもうれしかつた。メリアスはぎを少しす
るに出發用意になつた。夜歸つてから栗山先生と茂木先生に
そでの所を教へていただいた。こゝを両方やつて、あとえりぐ
りだけだと思ふに胸がどきどきして来た。少しするに、中野
寮の人が阿部先生の荷物を持って前田寮にまた。その後
から阿部先生がいっしょにやうして、コウゴよりいっしょにやう
したのであつた。それはこちらで言ふ方なのにと思つた。
就寢用意になつてお寺に行くとこをいっしょにやうした。

十月七日 日曜日

今日は楽しい待つてゐた行軍
だ。おべんたうをつめて、お宿の
境内に集合し、体操をして狐
先生にかまが小ちの所のやうす
や注意をお聞かしてから二年生
より出發した。高岩橋を渡り、立
野ヶ原を左手にどんどん進ん



だ。さうして、神明社といふところで、二十分ほど休けいした。この
お宿はとてもきれいで、一週りして見ると、ねずみ、牛、虎、うさぎ
といふ順になつてゐる。面白くてめづらしいなあと思つた。そこ
を出て又どんどん行くと、田んぼに出た。雨あがりてまだ少し
道がぬれてゐた。坂の所はすべりさうだ。片側は田んぼ片側は
かけぬいたな所をどんどん進んだ。しばらくいくと、さあさあ
と川の水の音が聞えて来た。岩がごつごつしてゐる所へ水があ
つては白いあめになつてくだけて海のやうだ。青々とした水
は少しも見えないで、白いあめばかりだ。そこに丸くなった物があ
つた。それが釜がふちだ。本當に朝會の時そこへ落ち込んだり助
らないとおっしゃつた通りだ。そこをすつと見てから岩の上で樂
しいおべんたうをいただいた。だれかが、動物園のさるみたいた
さうたのであつた。おべんたうをいただいてから乾パンをい
ただいた。栗田さんが木の枝に乘つて、栗をさかんに落さうとし
てゐた。下では、岩田さんが、落ちて来ても痛くないやうにすげ
をかぶつて乾パンをいただいてゐる。しばらくすると出發にな
つた。又田んぼ道を歩いた。今度は来る時と少し違ふ道のやうな
氣がした。途中栗の木の下で栗を拾つた。私は小さいのばかりだつたが、
十五粒拾つた。その中でも虫のくつたのがだいたつた。道尺いただ
いた。歸るとすぐ夕食だつた。お食後にありんとうと梅の形をした
パンをいただいた。河井さんと、中川さんのお母様がいらした。
中川さんはもうすうかり荷作りなさつて明日お歸りになるさう
だ。お友達かへるのはつまらないなあと思つた。

先生が四年生以上の人は今日一時間目から図書館の階上
で特別授業があるから足りない椅子は、下から持ってい
っしよ。とあっしやった。お掃除をして、図書館へ行く
机だけで一つも椅子がなかった。すぐ道具を置いて二階
へ行ったさうして先生に席をきめていただいた。少しす
るに郡先生と茂木先生と去田先生が富山縣の地
図を持って入っていらっしやった。そこへ堀先生がいらっ
しやって授業が始まった。始めは福光の地圖で郷土み
な事だった。本町とが東町西町荒町中荒町西荒町
深町味増屋町横町岩脇町とかいうような町の名を
お聞きした。私たちのいる前田寮は東町だ。
それから今度は村の名をお聞きした。小矢部川の右
岸を北からいふと東野尻・東石黒・吉江・東太美・太美
その反対左岸は、西野尻・黒・福光・廣瀬・廣瀬館
西太美・太美といふ順だといふしやった。その次に富山縣の川や山
を調べた。黒部川・神通川・床川・小矢部川など大きな川が澤
山あって、小矢部川は水成岸だといふことなどをお聞きしてか
ら小矢部川の増水を見に行つた。高宮橋は少したるみ地面
にひびが入つてゐた。そこから老淑寮の前のあたりに行く道
が細くなつてゐたそこを通過して學校へ歸つた。午後は水流の早
さを計りに行つたがうまく出来なかつた。學校へ歸ると四時近
くだったので寮へ歸らなかつた。夜寮へ歸つて来るに柿内先
生がいらつしやった。



十月十一日
朝食がすんでから新を
つて寮へ歸つた。上へあが
着を取り返してからそれをあ
った。出發用意の少し前にな
めの質をいただいた。始めてな
のでどうしていただくのかわから
なくて先生にお聞きした。とて
通れないので福光橋を渡り小矢部川の右岸を歩いた。
立野ヶ原の方へ行かうとして途中で道を違へて後もどりを
した。やうに配給所へ来た。風呂敷に間引きしたお大根
を入れていただいた。歸りはお腹がすいてゐるので行き
より早く歩いた。高宮橋の所まで来てどうしようかと思つ
てゐると大きい荷物を背負つた人がどかどか歩いてゐる
ので、大丈夫だと思ひしよこを渡つた。
學校へ着くと丁度お晝のサイレンが方々で鳴つてゐた。
お裁縫室へ行つて照とうをしていただき始めた。お腹が
すいてゐたので特別おいしかつた。
すんでからすぐ寮へ歸り五年の小さい方から五人はお
風呂場で他の人は外でかみ洗ひをした。お湯が熱く
て水をうめてゐるうちにお湯が多くなつてしまつた。と
てもあたたかくていい氣持だった。

生きたる歴史

生ける歴史が續リこし

齡はこゝに二千年

詩人土井晩翠に斯う詠はれた萬里の長城を訪ふには北京に於ける羈旅中の如何なる時期を選んだら最も郊果的であらうか？勿論都合の好い時に掛ける差支へないが相成りとは北平の主要な宮邸建築を一通り參觀し瓊樓玉宇に聊か眼の疲勞を覺えた頃―北京逗留期間なか頃を選ばないやうしたならば王城としての北京とその北門を邊かに守護する長城と聯關的に眺め、はつきりした印象を残し得るであらう。

夏の日に熱湯の汗を流しながら燃ゆるが如きあか土を踏み長城

ノ物ノジミヤウノシラベ

2 日本ノザシキト外國ノ所デヨイトコロワレイトコロ

3 米一ヤウ何ツブカ

栃木県足利郡小俣町

大川信助様方

中川恭子様

あか土を踏み
長城を歩く



あか土を踏み
長城を歩く